

どうほうらいきょう
銅蓬萊鏡

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 川井(北上山地民俗資料館)
- ◇ 所有者 個人

銅蓬萊鏡は直径109mm、重さ245gの銅鏡です。銅鏡は祭祀や婚礼の際に使用されたとされ、片面を磨いて鏡とし、もう片面は装飾が施されています。装飾されている面は外側で笹竹、若松、流水、^{ささだけ わかまつ りゅうすい}が施文されています。その内側には一対の足長鳥^{あしながどり}と岩礁、流水、松や笹などの描写が確認できます。

中央には亀を模した紐を通すための亀鈕があります。「蓬萊」とは中国の伝説で、仙人が住む不老不死の地とされる霊山のことで、その蓬萊を模した描写から蓬萊鏡と名付けられています。14世紀後半～15世紀前半に製作と考えられます。

この鏡は墓地から出土したとされ、出土した際にツルハシによって開けられたと伝えられている孔が、亀鈕の右に残っています。

